

# 首都圏の若年層による 「ゆうて(も)」の使用

—大学生による日常会話をデータとして

原田幸一

## ●要旨

**本**稿は、首都圏の若年層の日常会話をデータとし、「ゆうて(も)」の使用を調査・分析することを目的とする。分析の結果、「ゆうても」より「ゆうて」のほうが圧倒的に頻度が高いこと、「ゆうて(も)」は前後に機能語を伴わずに使用されるのが典型であり、機能語を伴う場合「でも、ゆうて」・「まあ、ゆうて」・「いや、ゆうて」などが使用されること、「ゆうて(も)」が使用される文の文末表現は「から」・「する形/た形」・「けど」が典型であることが分かった。用法は〈主張限定〉と〈話題展開〉に分類でき、〈主張限定〉のほうが〈話題展開〉より使用頻度が高く典型的な用法であった。〈主張限定〉における文末表現は「から」が最多で、〈話題展開〉における文末表現は「する形/た形」が最多であることが明らかとなった。〈主張限定〉で「から」が最多であること背景として、フェイス損ないの軽減などを主張した。

## ●キーワード

ゆうて(も)、連用形ウ音便、主張限定、話題展開、フェイス損ないの軽減

## ●ABSTRACT

This paper analyzes usage of “Yuute/Yuutemo”, which is considered to be a concessive conditional conjunction involving U-euphonic Renyō form of the verb “lu”, based on the data of everyday conversation of university students in the Tokyo Metropolitan Area. The study revealed the following.

1. “Yuute” is much more frequent than “Yuutemo”.
2. About half of all examples of “Yuute/Yuutemo” are used without any other function words around them.
3. Typical sentence final expressions in sentences including “Yuute/ Yuutemo” are “Kara”, “Suru-form/ Ta-form”, and “Kedo”.
4. “Yuute/Yuutemo” is used for (a) assertion limiting, and (b) topic developing. Sentences of (a) type have a tendency to end with “Kara”, while those of (b) type with “Suru-form/ Ta-form”.

An argument was made that the frequency of “Kara” as a sentence final expression in (a) type sentences might be a result of face threat mitigation.

## ●KEY WORDS

“Yuute/Yuutemo”, U-euphonic Renyō form, assertion limiting, topic developing, face threat mitigation

Usage of *Yuute/Yuutemo* by Young People  
in the Tokyo Metropolitan Area  
Based on everyday conversation data of  
university students  
KOICHI HARADA

## 1 はじめに

原田 (2012) は、首都圏の若年層によって使用される文頭部の「ゆうて(も)」を指摘している。以下は原田が挙げる例である(下線は原文)。話者記号は筆者が変更した。「ゆうて(も)」の話し手をS、聞き手をLとした。

(1) L: C君さ、バイトがめっちゃ忙しいらしいよ。

S: らしいね。でも、ゆうて(も)、週4休みって聞いたけど。

原田は(1)の例を用い、「ゆうて(も)」の使用に関するアンケート調査を行っている。調査対象となった首都圏の大学生において「ゆうて(も)」の使用が見られることを指摘した。調査の結果、「ゆうて」の使用者は約7割(N=86名)に上ったという。ただし、原田が調査に使用した(1)の例はあくまで作例と思われ、管見の限り、実際の会話における「ゆうて(も)」の使用を調査した研究はない。そこで、本稿は、首都圏の大学生による日常会話をデータとし、「ゆうて(も)」の使用を調査・分析することを目的とする。

## 2 動詞の連用形ウ音便

堀井(1982)によれば、「買った」をコータのように言うウ音便は「近畿方言ばかりではなく西日本諸方言にみられる」(p.11)という。このことは、『方言文法全国地図』を見ることでも分かる。『方言文法全国地図』第2集の第105図「買った」の略図を図1として示す。この図1は小西(2004)からの引用であり、促音便形をとるかウ音便形をとるかに着目して作成された略図である<sup>[注1]</sup>。●がウ音便形を示し、△が促音便形を示す。図1を見ると、ウ音便形(●)は西日本で使用されることが分かる。

以上から、従来動詞のウ音便は西日本の特徴とされてきたことが分かる。これを踏まえると、「言う」の連用形ウ音便である「ゆうて(も)」という形式を首都圏の若年層が使用するという原田(2012)の指摘は、若年層の方言使用や

言語の変化という観点から興味深い。今後の動きをより正確に追うためにも、実際の会話データにおける使用の分析を行っておく必要がある。



図1 『方言文法全国地図』第105図「買った」の小西(2004)による略図

## 3 「～とって(も)」に関する先行研究

原田(2012)が指摘する(1)の「ゆうて(も)」は、促音便ならば「いって(も)」である。「いって(も)」を含む接続詞は「とって(も)」が挙げられる。「～とって(も)」を扱う研究には、藤田(1987)と田中(1989)、小金丸(1990)がある。以下、それぞれを「～とって(も)」の用法という観点から簡単にま

とめる。

藤田 (1987) は、「～とって(も)」を「推論の否認を明示する形式」とする。以下は藤田の挙げる例である (例文番号は筆者、例文は適宜まとめた)。

- (2) a. コガネムシは金持ちだ。  
b. コガネムシだから金持ちだ。  
c. コガネムシだからとって金持ちだとは限らない。  
d. コガネムシ(だ) とっても金持ちだとは限らない。

(2a) を「(Xが) コガネムシなら (Xは) 金持ちだ」という推論として読むと、(2b) のようにも書き換えられる。(2b) に「とって」を挿入すると文末に「とは限らない」などの否認の言葉が要求される。(2c) の「だからとって」を「(だ)とって」に置き換えても同様である。(2) の観察から、「とって(も)」は、「推論に割って入って、その推論自体を対象としてその否認を明示するとともに、文末に明確な否認の言葉を要求する」としている (pp.147-148参照)。また、「～とって」の現実の文例では、以下のような明確な否認の形式を見いだせない例が普通に見られることも指摘している。

- (3) ガンだといっても早期発見だ。

(3) のような例に対しては、「明示されない結論を探し出すための指令」であり、「ある結論を指し示す理由節である」という坂原 (1985) による疑似条件文の後件についての指摘を援用し、説明を試みている。(3) の明示されない結論は「ガンだといっても助からないとは限らない」であるが、この結論を導く理由節である「早期発見だ」で文が終止されている。あえて (3) の結論を明示すれば、「ガンだといっても早期発見だから助からないとは限らない」となる。

田中 (1989) には、「～とって」に関する言及がある。「～とって」で結ばれる前件と後件のうち、後件では、〈という〉で導かれる内容から受けるイメージの現実との食い違いや見かけと実態の不釣合が示されたり、補足説明や言い訳、注釈が加えられたりするという (p.145参照)。

小金丸 (1990) は、「～とって」と「～からとって」を比べ、「～とって」の文末は肯定や単純な否定の形にならず、「わけではない」・「とは限らない」などの否定の表現を伴うことを指摘した。つまり、(3) で言えば、「ガンだからとって早期発見だ」とは言えない。「～とって」について、「Pといっても…」は、「ある事物についてPという語句を用いて表現したことについて、その事物がPという語句で十分適切には表現されていないこと (Pから想起される典型的なものではないこと、Pの持つ性質・実質的内容を伴っていないこと、Pという語句で一括しきれないこと等) を示し、主節において、必要に応じて、より適切な記述を行う」(p.34) としている。「～からとって」は、「ある推論に対して、「[推論の根拠] + からとって、[推論の帰結] + [否定]」という形で、その推論を否定するもの」(p.36) としている。

以上をまとめると、「～とって」は、藤田により用法の核となる「推論の否認」が指摘され、小金丸により「推論の否認」を行う理由 (「Pという語句で一括しきれない」など) が精緻化され、田中により行為面を重視した記述 (「補足説明や言い訳、注釈が加えられる」など) が精緻化されたといえる。以上の指摘は (1) の「ゆうて(も)」についても援用できるものと思われる。また、藤田の文末表現についての議論は、小金丸でより詳細に記述された。この議論は、以下に示すごとく、接続詞「とって(も)」にも適用可能である。

- (4) a. Xはコガネムシだ。といってもXは貧乏だ。  
b. Xはコガネムシだ。(だから)といってもXが金持ちだとは限らない。

(4b) は「(だから)といってもXは貧乏だ」とは言えない。ただし、「ゆうて(も)」に関しては、文末表現に関して調査した研究はなく、いまだ明らかではない。本稿では、「ゆうて(も)」の文末表現の調査を分析に含める。

## 4 データ

本稿では、筆者が2009年と2010年に収集した大学生による日常会話データ

を用いる。首都圏の大学に通う大学生130人（男性76人、女性54人）に協力を仰ぎ、合計53時間半の日常会話を収録させてもらった。親しい友人同士の2人から5人で1組を構成してもらい（全部で51組）、1組あたり約1時間の会話を収録した。協力者の収録当時の年齢は26歳の1人と25歳の1人を除けば、全員18歳から22歳までに収まっている。130人のうち、首都圏を生育地とする49人を首都圏群と呼び、それ以外の81人を非首都圏群と呼ぶ。

会話の収録は、承諾を得た上で、ビデオカメラとICレコーダーを用いて行った。承諾の関係上、ICレコーダーで音声の収録のみを行った場合もある。収録の場所は大学内の教室や研究室である。親しい友人同士のできる限り自然な日常会話を収録することを目指すため、飲食や携帯電話の操作などを禁じはしなかった。話したい内容を自由に話してもらうため、筆者から協力者に対し話題を特別に指定することもしなかった。

## 5 分析の観点

本稿が分析の対象とする形式は「ゆうて(も)」である。以下に(1)を再掲する。

(5) L: C君さ、バイトがめっちゃ忙しいらしいよ。  
S: らしいね。でも、ゆうて(も)、週4休みって聞いたけど。

(5) では、「ゆうて(も)」の前に「でも」があるが、特に「でも」が先行することなく「ゆうて(も)」だけでも使用される。「でも」以外にも「いや」などが「ゆうて(も)」に先行して使用できるように思われる。そこで、「ゆうて(も)」の前後に使用される機能語を調査する。

原田(2012)は(5)に対し、Lの発話とSの「ゆうて(も)」以降の発話が逆接の関係にあると分析するが、(5)の「でも、ゆうて(も)」は、以下(6)のように補足型の接続詞<sup>[注2]</sup>である「ただ」によっても置き換えることができる。補足型の接続詞との置き換え可能性は、田中(1989)の「～といっても」に関する補足説明や注釈などといった指摘を踏まえても理解される。

(6) L: C君さ、バイトがめっちゃ忙しいらしいよ。  
S: らしいね。ただ、週4休みって聞いたけど。

(6)を踏まえると、(5)の「ゆうて(も)」は、Lの主張に対し、ある側面(1週間のうち、何日休みがあるのかという側面)から考えると正しくない可能性があることを補足的に示すと考えるほうが適切のように思われる。本稿では、会話データから得られる用例に即して用法の分析を行う。

以上、分析の観点を解説した。6節で調査・分析の結果を解説する。6.1で「ゆうて(も)」の使用頻度を概観し、6.2で「ゆうて(も)」前後の機能語を分析し、6.3で文末表現を分析する。6.4で用法を分析し、6.5で分析結果をまとめる。

## 6 分析結果

### 6.1 使用頻度の概観

データ内に「ゆうて(も)」は121例あった。表1に「ゆうて」と「ゆうても」の使用頻度と1例以上使用した者の数(使用者数)を示す。表1によれば、「ゆうて(も)」121例のうち、「ゆうて」が94.2%を占め、「ゆうても」より圧倒的に多いことが分かる。使用者数を見ても、「ゆうて」のほうが「ゆうても」より多いことが分かる。これらの傾向は、首都圏群と非首都圏群に分けても変わらない。生育地の観点から首都圏群と非首都圏群に分けたことで、首都圏を生育地とする大学生に「ゆうて(も)」使用者が存在することが日常会話データによっても実証された。

表1 使用頻度と使用者数

形式	首都圏群		非首都圏群		全体	
	使用頻度	使用者数	使用頻度	使用者数	使用頻度	使用者数
ゆうて	69 (95.8)	10 (20.4)	45 (91.8)	17 (21.0)	114 (94.2)	27 (20.8)
ゆうても	3 (4.2)	2 (4.1)	4 (8.2)	2 (2.5)	7 (5.8)	4 (3.1)
計	72(100.0)	全数49	49(100.0)	全数81	121(100.0)	全数130

## 6.2 前後に使用される機能語の分析

表2に「ゆうて(も)」の前後に発話される機能語の調査結果を示す。ここで、調査の対象とする機能語は副詞・接続詞・感動詞に限定した。また、表2では、各機能語は重ねて使用されることがあるので、機能語の頻度を合計しても「機能語あり」の59例とは合わない。総使用頻度が5例以下の機能語は「その他」としてまとめた。表2によれば、文内で「ゆうて(も)」の前後に使用される機能語は、「でも」が25例で最多であり、「まあ」・「いや」が19例・16例と続く。表2のうち機能語ありの59例を対象とし、「ゆうて(も)」とその前後に使用される機能語の組み合わせの傾向を調査した結果、「でも、ゆうて」・「まあ、ゆうて」・「いや、ゆうて」がそれぞれ15例・15例・12例で典型的であった。「ゆうて(も)」は前後に機能語を伴わずに使用されることが典型的であり、機能語を伴う場合「でも、ゆうて」・「まあ、ゆうて」・「いや、ゆうて」などが使用されやすいことが分かる。

## 6.3 文末表現の分析

表3に文末表現の分析結果を示す。表3では「からね」・「からな。」などの終助詞は捨象し、「から。」としてまとめた。総頻度が5以下の文末表現は「その他」としてまとめた。「不明」は、発話が途中で途切れていたり聞き取れなかったりしたため、文末表現の判別が不可能な例を示す。表3によれば、「から。」が34例で最多であり、「する形/た形」・「けど。」がそれぞれ24例・18例と続く。文末表現の上位4表現は全て「ゆうて」と「ゆうても」の両方において使用されていた。「ゆうて(も)」に関しては、文末表現の制限はないと言える。

表2 前後に使用される機能語

機能語なし	62 (51.2)
機能語あり	59 (48.8)
でも	25
まあ	19
いや	16
え	5
その他	4
計	121 (100.0)

表3 文末表現

文末表現	頻度
から。	34
する形/た形。	24
けど。	18
じゃん。	12
その他	21
不明	12
計	121

## 6.4 用法の分析

用法は〈主張限定〉と〈話題展開〉に分けられた<sup>[註3]</sup>。6.4.1で〈主張限定〉について、6.4.2で〈話題展開〉について解説する。6.4.3で用法と文末表現の関連について分析する。

### 6.4.1 〈主張限定〉

以下の例を見られたい<sup>[註4]</sup>。

(7) (いつももてないと言うSがつい最近ある人に告白された)

L: もてるな。

S: ゆうてね、全くタイプじゃないからね。

SはLの「もてるな。」の後、「ゆうて」を発話している。Lは、Sがある人に告白されたことから、「Sがもてる」という主張をする。Sはその告白してきた人が「全く自分のタイプではない」ことを「ゆうて」の後に発話する。Sの「全く自分のタイプではない」という発話は、Lの主張(Sはもてるからよい)に対して、どのような人に告白されたのかを説明している。Sの発話は、「告白されたといっても、全くタイプじゃない人からの告白だったということを考えるともてるからよいとは言えない」と解釈可能であり、Sの発話「全くタイプじゃない」はLの主張を限定的にする条件となっている。Lの主張の内容をX、Sの「ゆうて」の後の発話の内容をYとすると、XとYの関係は、以下のように抽象化できる。

(8) 主張Xは、条件Yを考えると、not Xという可能性があり、限定的である

「ゆうて(も)」の前後に発話されるXとYが(8)のような関係にある場合を、〈主張限定〉とする。

〈主張限定〉には、(7)のようにLの主張に対する限定の場合だけでなく、S自身の主張に対する限定の場合もある。以下がその例である。

(9) (LがSに、どうやって恋人と会う時間を作るのかという恋愛の相談をしている)

S: まあ、俗に言うのは、2人で時間割合わせてオフ作って

S: どっか行くみたいな。

L: 出たー。

S: ゆうて、私はしてないけど。

L: え、Sちゃんしてないの？

S: してないよ。

Sは1行目・2行目で、世間一般では、恋人と会う時間を作る方法として、大学の時間割を合わせるという方法がよく挙げられていることを述べるが、4行目では、S自身はその方法をとっていないことを述べる。Sの「ゆうて」の後の発話の内容は、世間一般で言われる方法は、私の場合は当てはまらないということを示している。Sの1行目・2行目の主張の内容をXとし、Sの「ゆうて」の後の発話の内容をYとすると、主張Xの成立は、条件Y(「S自身の場合」という条件)を考えると、限定的であると解釈でき、(8)の関係が当てはまる。

#### 6.4.2 〈話題展開〉

以下の例を見られたい。

(10) (飲み会での一気飲み話題、Aは会話の場にはいない第三者)

01 L: ビン一気のほうがー、コップ一気より俺やりやすくてー、

02 L: コップ一気のとて、ビリから二番目だった。

03 L: Aの次ぐらいだったからー。

04 S: A (笑い) Aやばいっしょ。

05 L: Aやばかった。

06 S: ゆうて、A飲めないっしょ、そんな。

07 L: うん、寝てた。

Lは、1行目から3行目で、前の飲み会でコップによる一気飲みをした際、Aの次に一気飲みの速度が遅かったことを述べる。それを受け、Sは、Aの名前を

笑いながら発話し、Aが「やばい」ことを同意要求する。Lは、5行目で、「Aやばかった」と同意する。その直後、Sは、「ゆうて」を発話し、Aがそれほど飲めないことを同意要求する。それを受け、Lは、7行目で「うん」と同意する。LとSは、7行目以降、Aがいかに酒に弱いかという話題を進める。Sの4行目の笑いながらの「A」という発話は、Lの1行目から3行目までの発話をきっかけとして、5行目以降の発話でAの話題が進められる起点となっている。Sはまず4行目で「Aやばいっしょ。」とAの話題を開始し、Lへ同意を要求し、Lの5行目の同意の後、さらに、Aの話題を進めるため、再び「A飲めないっしょ、そんな。」と、Lへ同意を要求する。Sの6行目の「ゆうて」はAに関する話題を展開するために使用されていると考えられる。この例のような「ゆうて」を〈話題展開〉とする。

#### 6.4.3 用法と文末表現の関連

表4に用法と文末表現の関連を調査した結果を示す。発話の途切れや発話の聞き取りが不可能なことなどのため、用法の判別が難しい例は「不明」とした。また、以下のような単独での使用も「不明」とした。

(11) S: この中で一番背が高いのゆうてMちゃんじゃん。

L: そうだね。Mちゃんだからね。

S: うん。ゆうてね。

この例でSは3行目の「ゆうてね。」の後に発話を続けておらず、「ゆうてね。」は単独で使用されているとみなすことができる。本稿では、「ゆうて(も)」の後に発話が続く例のみに用法の分析を絞り、(11)のような単独使用の分析は今後の課題とする。表4によれば、用法の中では〈主張限定〉が最多で典型であることが分かる。また、〈主張限定〉の文末表現は「から。」が最多で、〈話題展開〉の文末表現は「する形/た形」が最多であることも分かる(用法ごとに見て最多の文末表現にグレーの網掛けを施した)。

表4 用法と文末表現の関連

用法	から。	する形/た形	けど。	じゃん。	その他	不明	計
主張限定	30 (38)	13 (17)	16 (21)	8 (10)	10 (13)	1	78 (100)
話題展開	4 (14)	8 (28)	2 (7)	3 (10)	9 (31)	3	29 (100)
不明	(7)	3 (20)		1 (7)	2 (13)	8	14 (100)
計	34 (28)	24 (20)	18 (15)	12 (10)	21 (17)	12	121 (100)

## 6.5 分析結果のまとめ

6節では以下のことを明らかにした。

首都圏の若年層の日常会話において、

- ア. 「ゆうても」より「ゆうて」のほうが頻度が圧倒的に高い。使用率は約20%であり、首都圏群と非首都圏群とに分けても使用率約20%である。
- イ. 「ゆうて(も)」は前後に機能語を伴わずに使用されるのが典型であり、機能語を伴う場合、「でも、ゆうて」・「まあ、ゆうて」・「いや、ゆうて」などが使用される。
- ウ. 「ゆうて(も)」が使用される文の文末表現は、「から。」が最多で、次に多いのは「する形/た形」・「けど。」である。
- エ. 「ゆうて(も)」の用法は、〈主張限定〉と〈話題展開〉に分類できる。〈主張限定〉のほうが〈話題展開〉より使用頻度が高く典型的な用法である。〈主張限定〉における文末表現は「から。」が最多で、〈話題展開〉における文末表現は「する形/た形」が最多である。

## 7 考察

6.4で用法と文末表現の関連を分析した。〈主張限定〉における文末表現は「から。」が最多で、〈話題展開〉における文末表現は「する形/た形」が最多であった。ここでは、この用法と文末表現の関連について考察を行う。

〈主張限定〉において「から。」で終わる例を以下に挙げる。

(12) (Sは最近いろいろあって忙しい、BはLが所属するサークル名)

L: 俺オンリーBだもん。

S: でもBも忙しいからねー、ゆうて。

S: Bって部活なの? サークルなの?

Sは会話抜粋の直前にいろいろとやることであって忙しいことを述べる。それに対して、LはやることがサークルBしかないことを述べ、L自身がそれほど忙しくないことを主張する。2行目でSは、「ゆうて」を含む発話により、サークルBは忙しいことを主張する。この「Bも忙しい」の文末が「から」で終わっている（「ゆうて」が倒置されて使用されているが、この場合の文末表現は「から。」とした）。(12)の1、2行目の論理関係をより明確にすれば以下のようになり、「Bも忙しい」が「から」を伴う理由が分かる。

(13) L: Bしかないから忙しくない。

S: Bしかないといっても、B自体が忙しいから、

S: ある意味Lは忙しい。

(13)で、Lの主張X「Bしかないから忙しくない」に対して、条件Y「B自体が忙しい」を考えると、「ある意味Lは忙しい」と考えることができ、主張Xは限定的になる。このとき、条件Yは、主張Xを限定的にする「ある意味Lは忙しい」という主張を行うための理由・根拠である。このため、条件Yは「B自体が忙しいから」のように「から」を末尾に伴いやすいと考えられる。さらに、条件Yが「から」を伴い、かつそれで文を終止させる傾向にあることは、聞き手への配慮という観点から説明可能ではないか。(13)において、Lの主張Xを限定的にする発話「ある意味Lは忙しい」を直接述べることは、「ある意味Lは忙しい」と考える理由・根拠である条件Yだけを述べることよりも、Lの主張Xが成立しないことを「not X」と直接述べている分、聞き手Lのフェイスを損ねる度合いが高いと考えられる。Lのフェイスを損ねる度合いを軽減するために、発話「not X」は直接行われず、「not X」となる理由・根拠を述べて、それで発話を終了させる傾向にあるのではないだろうか。

## 8 まとめと今後の課題

本稿は、首都圏の若年層（大学生）の日常会話をデータとし、「ゆうて（も）」の使用を分析した。「ゆうても」より「ゆうて」のほうが圧倒的に頻度が高かった。「ゆうて（も）」は前後に機能語を伴わずに使用されるのが典型であり、機能語を伴う場合「でも、ゆうて」・「まあ、ゆうて」・「いや、ゆうて」などが使用されていた。「ゆうて（も）」が使用される文の文末表現は、「から。」・「する形／た形」・「けど。」が典型であった。用法は、〈主張限定〉と〈話題展開〉に分類できた。〈主張限定〉のほうが〈話題展開〉より使用頻度が高く典型的な用法であり、〈主張限定〉における文末表現は「から。」が最多で、〈話題展開〉における文末表現は「する形／た形」が最多であった。〈主張限定〉で「から。」が最多であることの背景として、フェイス損ないの軽減などを主張した。

今後の課題は、「ゆうて（も）」の動きを追うことである。本稿の分析により、現時点での首都圏の若年層における「ゆうて（も）」の使用はある程度明らかになった。本稿の結果と原田（2012）のアンケート調査の結果は互いに補い合う関係にあるとみる。アンケート調査や会話データの収集を経年的に行うことによって実時間的な変化を追いたい。共時的には、地域差・年代差の解明も課題となる。言語の地域差・年代差の解明は、我々の言語生活の実態の把握を進め、かつ言語変化研究にも資する。

〈一橋大学大学院生〉

得た。〈話題展開〉は、岩澤（1985）が逆接の接続詞の用法として指摘した「展開用法」（pp.42-43）や川越（2003）が補足型の接続詞「ただ」の用法として指摘した「話題の展開」（pp.98-99）などを参考にした。  
[注4] ……（7）以降の例では、丸括弧内に注記を示している。内容の理解のしやすさを考え、発話の重なりや言いよどみなどは一部省略した。

### 参考文献

- 市川孝（1973）『国語教育のための文章論』教育出版  
岩澤治美（1985）「逆接の接続詞の用法」『日本語教育』56, pp.39-50. 日本語教育学会  
川越菜穂子（2003）「補足の接続詞「ただ」「ただし」について—聞き手配慮—」使用条件にした分析」『帝塚山学院大学人間文化学部研究年報』5, pp.82-101. 帝塚山学院大学  
小金丸春美（1990）「相手の推論を否定する形式をめぐって—「～といっても」と「～からといって」」『国語国文』3, pp.25-41. 梅花短期大学国文学会  
小西いずみ（2004）「富山県方言の文法—地理的分布と記述研究の視点から」中井精一・内山純蔵・高橋浩二（編）『日本海沿岸の地域特性とことば—富山県方言の過去・現在・未来』pp.28-50. 桂書房  
坂原茂（1985）『日常言語の推論』東京大学出版会  
田中寛（1989）「逆接の条件文〈ても〉をめぐって」『日本語教育』67, pp.139-158. 日本語教育学会  
原田幸一（2012）「首都圏若年層による動詞「言う」の連用形ウ音便の使用—文頭部に使用される「ゆうて（も）」に注目して」『日本方言研究会研究発表会発表原稿集』94, pp.9-16. 日本方言研究会  
藤田保幸（1987）「「～トイウト」「～トイエバ」と「～トイッテ」「～トイッテモ」—複合辞に関する覚書」『国語国文学報』44, pp.141-152. 愛知教育大学国語国文学研究室  
堀井令以知（1982）「近畿地方の概説」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『講座方言学7 近畿地方の方言』pp.1-25. 国書刊行会  
森田良行（1958）「文章論と文章法」『国語学』32, pp.91-105. 国語学会

### 注

- [注1] …… 小西いずみ氏のインターネットサイトにある『方言文法全国地図』略図第105図「買った」（過去形）のhtml版も参照した。http://home.hiroshima-u.ac.jp/~ikonishi/（2012年11月22日参照）  
[注2] …… 市川（1973）の「補足型 前文の内容を補足する内容を後文に述べる型」を参照した。「ただ」は、「補足型」の「制約」に分類されている。  
[注3] …… 〈主張限定〉の「限定」は、森田（1958）の「限定式展開」（p.101）に想を



